

## 2 技術指導業務

## 2-1 工芸産地技術指導

部門	地域	期間	指導 企業数	講師名	職員名	指導内容
染織	浦添市	H20.8.5~9.30 (10回)	1		玉城 研	織物図案技術指導
	読谷村	H21.3.5	4		伊元 幸春 玉城 研	読谷山花織技術指導
	石垣市	H21.3.5~3.6	9	平良 美由紀	安里 由加	紋織技術指導
	計		14			
木漆工	国頭村	H20.11.26	1		大城 直也	県産木材の状況に関する技術指導 導生指導
	南風原町	〃	1		大城 直也	
	糸満市	H21.3.26	1	戸真伊 擴	大城 直也	木工家具製作技術指導
	南城市	〃	1	〃	〃	〃
	浦添市	〃	1	〃	〃	〃
	宜野湾市	〃	1	〃	〃	〃
	南風原町	H21.2.10	30	大藪 泰	糸数 政次	漆の吹き付け塗装技術
	南城市	H21.3.30	1	謝敷 真起子	糸数 政次	漆工技術
	那覇市	〃	2	〃	〃	〃
計		39				
合計		53				

## 2-2 年度別工芸産地技術指導数

年度	指導回数				指導企業数				備考
	染織	木漆工	デザイン	計	染織	木漆工	デザイン	計	
S49 ~H12	197	143	55	395	3,062	843	280	4,185	
H13	2	3	1	6	53	9	1	63	
H14	3	2	1	6	27	8	3	38	
H15	2	2	1	5	42	4	3	49	
H16	4	3	1	8	50	10	3	63	
H17	6	0	1	7	65	0	4	69	
H18	4	2	0	6	38	2	0	40	
H19	6	2	0	8	39	6	0	45	
H20	3	9	0	12	14	39	0	53	
合計	227	166	60	453	3,390	921	294	4,605	

## 2-3 技術調査

部門	地域	期間	調査及び指導内容	職員名
染織	国頭村、名護市	H20.5.2	素材及び現状調査	玉城 研 仲間 大三 土屋 百恵
	宮古島市、石垣市	H20.6.18~6.19	織物産地調査	玉城 研
	うるま市	H20.7.3	織物産地技術調査	玉城 研
	沖縄市	〃	〃	土屋 百恵
	那覇市	〃	〃	上間 ゆかり
	東京都 東京都	H20.7.16~7.17 H20.10.15~10.17	織物及びファッション製品調査 染織製品及び素材調査	玉城 研 〃
	京都府	H20.10.25~10.27	県外工芸事情調査	湧田 裕子 仲間 大三
木漆工	東京都	H20.7.1	東京木材問屋協同組合調査	大城 直也
	東京都	H20.10.1	工芸品調査	湧田 裕子
	東京都	H20.11.6	デザイン事例調査	大城 直也
デザイン	東京都	H21.1.13~1.16 5	デザイン戦略構築促進事業にかかる調査（国際ファッション・フェア）	伊元 幸春
	東京都	H21.1.13~1.16	〃	大城 直也

## 2-4 講習会

部門	題目	内容	指導講師名	所属	期間	出席者数	場所
染織	デザイン講習会	平面構成	比嘉 利寛	センター職員	H20.9.29 ~10.3	9	工芸技術支援センター
木漆工	3本ロール精製漆とその利用法について	漆吹きつけ技術	大藪 泰	京都市産業技術研究所	H21.2.10	31	工芸技術支援センター

## 2-5 年度別技術相談件数

業 種 別	年度 相談内容	S55	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
		〃 H12								
織 物 業	製糸技術	627	13	11	18	15	13	15	5	3
	撚糸技術	478	24	20	20	25	19	20	8	10
	デザイン技術	1,614	58	53	54	66	93	105	127	61
	糊付け技術	367	14	16	13	5	8	5	2	4
	染色技術	1,322	53	56	58	62	51	70	94	112
	緋技術	862	20	28	31	34	26	30	72	78
	紋織技術	912	35	42	45	40	34	43	38	42
	小計	6,182	217	226	239	247	244	288	346	310
紅 型 業	デザイン技術	785	131	83	92	96	105	124	112	97
	型彫り技術	515	63	45	56	47	51	68	51	62
	染色技術	1,004	43	32	38	35	37	46	56	58
	蒸し技術	420	25	37	41	46	41	28	38	20
	仕上げ加工技術	514	28	22	15	12	16	14	26	16
	小計	3,238	290	219	242	236	250	280	283	253
木 工	木材乾燥	1,190	69	59	60	45	50	51	37	41
	塗装	857	30	28	15	39	23	34	40	39
	木材加工	992	55	50	40	51	55	57	32	56
	木材接着	162	2	0	2	1	0	9	7	5
	デザイン	1,060	65	42	71	40	50	52	43	35
	小計	4,261	221	179	188	176	178	203	159	176
漆 工	素地	461	12	10	10	8	15	25	30	20
	髹漆	791	30	20	25	20	23	30	35	32
	加飾	780	25	17	30	25	30	26	25	23
	バガス成形	328	6	2	5	3	2	4	2	2
	デザイン	738	72	31	59	50	52	46	50	42
	小計	3,098	145	80	129	106	122	131	142	119
合計		16,779	873	704	798	765	794	902	930	858

## 2-6 技術指導事例

### デザイン講習会

担当 比嘉 利寛

#### 1. 目的

図案構成力の向上を目的に、構成素材となるモチーフの観察及びデザイン化、構成手法の習得に最適な平面構成の実習を行った。

#### 2. 指導概要

【講師】比嘉 利寛 工芸技術支援センター  
主任研究員

【対象】豊見城市ウージ染め協同組合員  
後染め組合員

【日時】平成20年9月29日～10月3日（5日間）

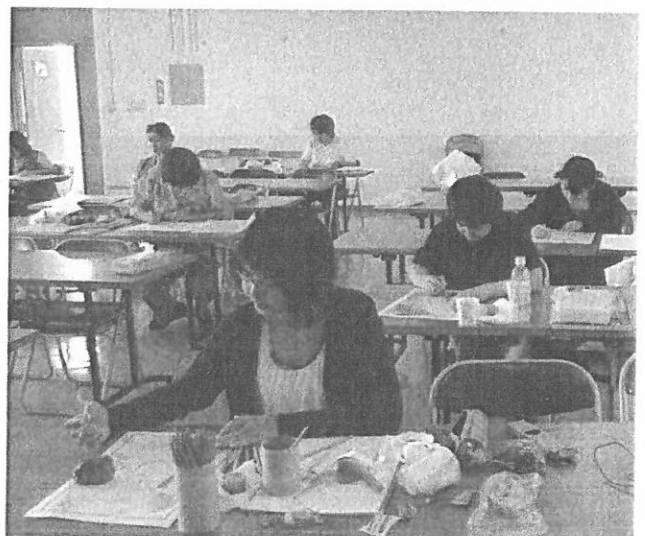
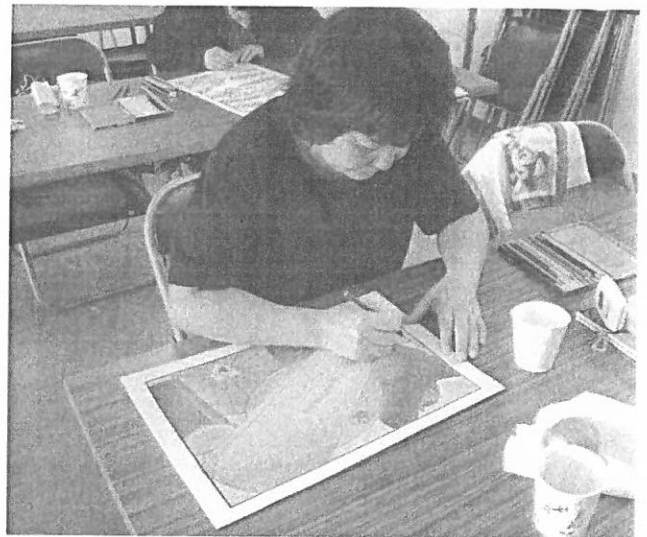
【場所】工芸技術支援センター

【内容】講義：平面構成について

- ・平面構成とは
  - ・平面構成の作成方法
- 実習：平面構成の実習
- ・モチーフのスケッチ
  - ・モチーフ及び画面の着彩
- 講評：完成した作品の講評
- ・イメージ、構想、構成手法

#### 3. 指導成果

平面構成は繰り返し行うことで、図案作成時の特に画面構成に役立つ。今回は、その平面構成中のモチーフ構成を実習した。モチーフは受講者全員同じものにした。受講者はスケッチから構成、さらに着彩を行った。完成した個々の平面構成は、同じモチーフとは思えない程個人差があり個性的な出来映えであった。それは、この講習会がねらい通りの成果を得た結果であると考えている。受講者は同じモチーフという土台において、他者との比較を通し自分の構成手法の癖、或いは着彩時の持ち色などを客観的に把握できる。更に他者の構成及び着彩表現をも吸収出来る。そういった意味で、今回の講習会は、受講した組合員の図案力向上に繋がる。



# 漆工技術講習会

担当 糸数 政次

## 1. 目的

3本ロール精製漆は低温低湿雰囲気においても乾燥するため、漆風呂が必要なく現場での塗装が可能で社寺仏閣はもちろん、一般建造物やエクステリア、内装材、外装材これまで漆では考えられなかった様々な分野に使用され始めている。このように既成概念を大きく変える漆についての講習会を行うことで業界の今後の発展に寄与できればと考え実施した。

## 2. 指導概要

【講師】大藪 泰

京都市産業技術研究所 工学博士

【対象】琉球漆器事業協同組合、三線製作業者、うるし組、平成20年度漆工研修生

【期日】平成21年2月10日

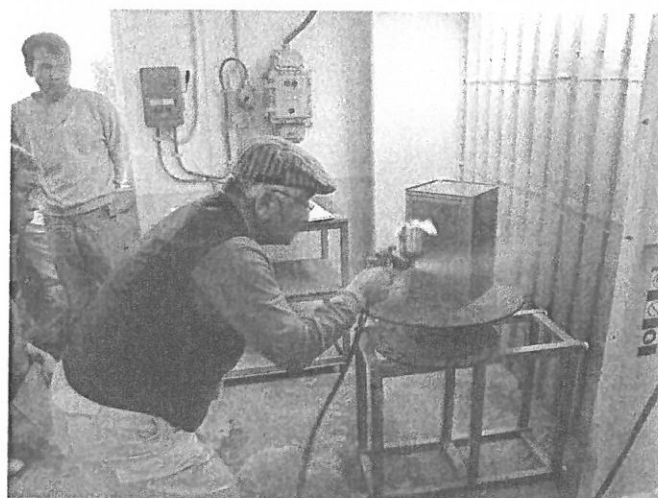
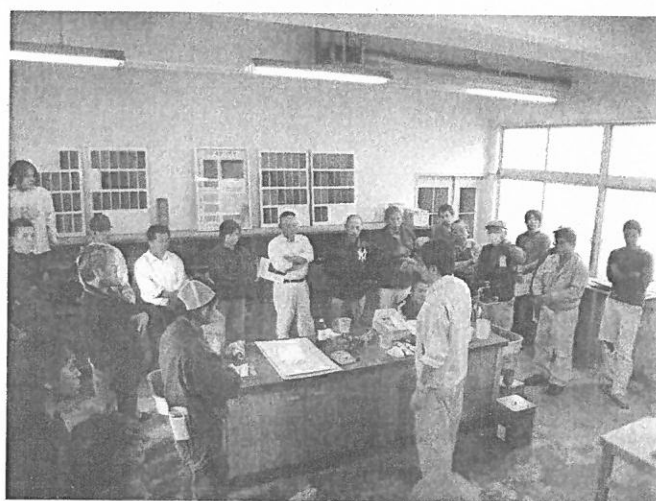
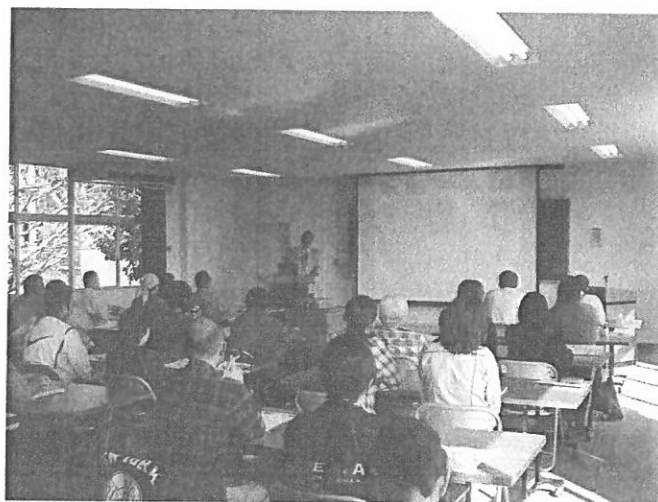
【内容】3本ロール精製漆とその利用法について

講義：漆の新しい展開と可能性について

実習：低温低湿度でも乾く漆の吹き付け塗装技術の実技

## 3. 指導成果

- 漆膜が沸騰水に浸けても変色が発生しにくい漆で自動食器洗浄機に対応できるので給食用食器の漆塗り碗を製造することができる。他に低温低湿度でも乾き、紫外線にも強く屋外用塗料としての展開が可能性なので、文化財修復技術に関する事で参考になったと思う。
- 三線製作業者は、複雑形状の棹にエアースプレー塗装できるので本漆塗りの三線として付加価値のある商品製作が可能になる。
- 木工業界では、漆ではかぶれや漆を塗った後、湿し風呂に入れ乾燥させるために製品が変形するおそれがあり敬遠されている。今回の漆はかぶれにくい漆で尚かつ低温低湿度でも乾くので拭漆仕上げに適している。多いに活用し拭漆商品の増加を期待したい。



## 巡回技術指導

担当 安里 由加

### 1. 目的

八重山花織事業組合の新規組合員に向けた紋織技術の指導及び、既存組合員へのデザイン及び製織指導。

### 2. 指導概要

【講師】

平良 美由紀（祝嶺工房）

【対象】

みね屋及び八重山花織事業組合

【期日】

平成21年3月5日（木）～6日（金）

【内容】

紋織技術指導（総ロートン織・ヤシラミ織）  
組織図の見方・綜統通しの順番

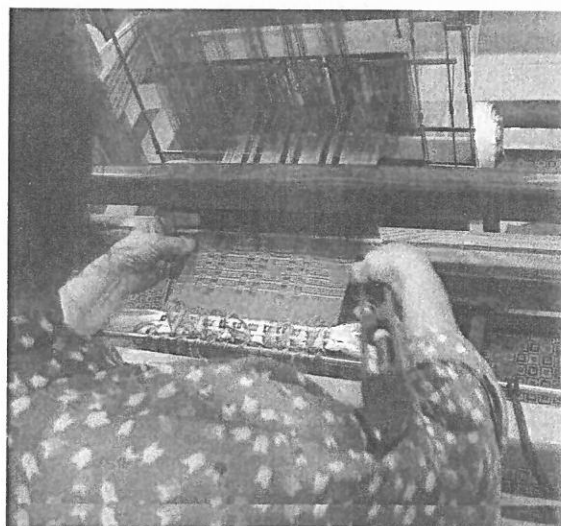
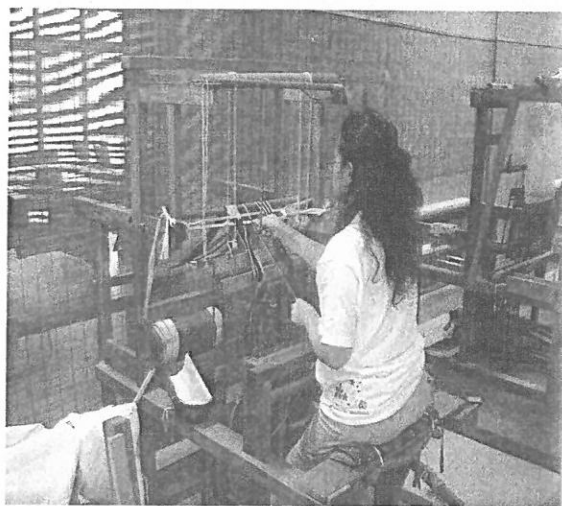
### 3. 指導成果

これまで、同組合は紋織・ヤシラミ織技法を用いて、花織みんさを使用した袋物などの生産を行っているが、今回指導を行うまでは、綜統通し時点で経糸通し順を調整しヤシラミ風に商品を生産していた。今回はヤシラミ織の基本である経糸の組み換えから指導を行った。

ロートン織に関しては、以前にも技術指導を行ったが、その後に新たな生産者が増えたことでの、再度指導希望である。前回は一通りの作業工程の指導であったが、今回は組織図の見方や綜統の通し方を重点に指導を行った。

通常綿糸を使用している商品製造を行っているが、今回はシルク糸を使用している指導となった。使い慣れていない糸での指導であったため、糸扱いに手間取ったが、受講者全員が、経糸組み換え、箆通し、製織まで行うことができた。

今後は、これまでの技術の研鑽と共に修得した技術を生かしたオリジナルデザインの展開を期待したい。



# 巡回技術指導

担当 糸数 政次

## 1. 目的

指導の方法は、3 工房を巡回して個別に指導する企業巡回指導を行い企業が技術問題を改善し、技術の向上を図ることを目的として実施した。

## 2. 指導概要

### 【講師】

謝敷 真起子（漆芸作家）

### 【対象】

兼工房、木工家具 杉の、工房いーさく

### 【期日】

平成21年3月30日

### 【内容】

○呂色技術、加飾技術、漆の吹付け塗装技術

## 3. 指導成果

### ○兼工房

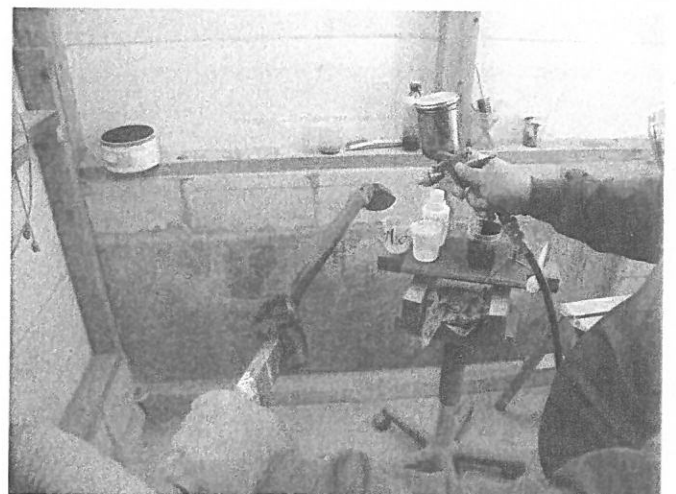
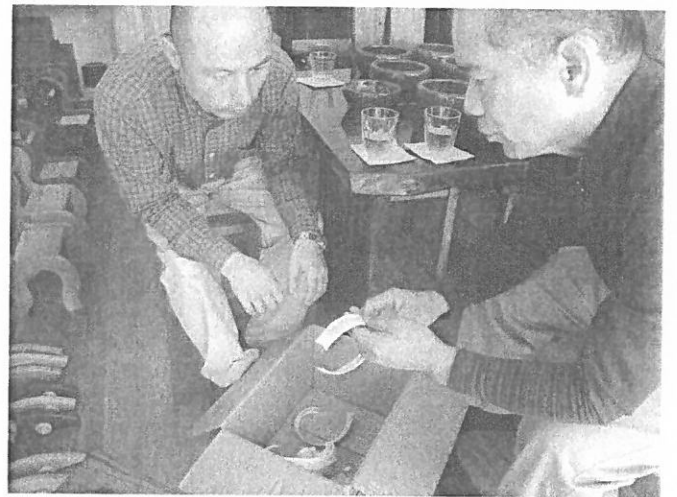
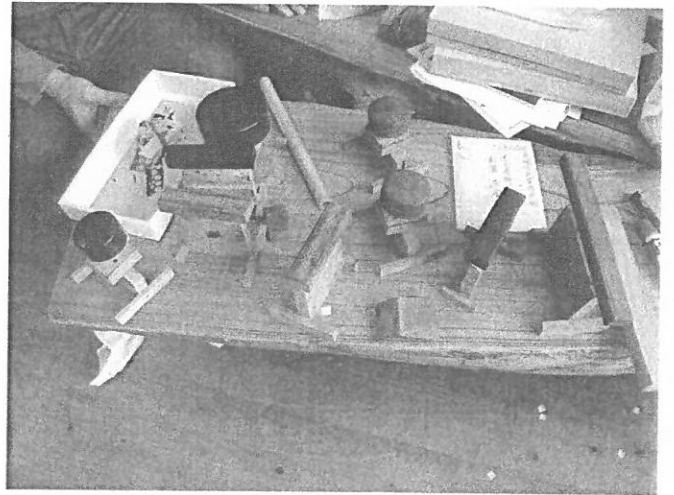
書鎮、文鎮制作時の下地工程についての再度の見直し質問があり話を聞きながら指導を行った。蒔地した後の粉固め用漆、錆地の漆と砥の粉の混合割合、中塗り工程の塗り回数、ピンホール発生時の処置などについて指導を行った。

### ○木工家具 杉の

工房は、県展に木地呂色仕上げの作品を出品し受賞した実績がある。今後は作品に加飾を施したいとの要望があり加飾技術を指導した。薄貝螺鈿に使用する夜光貝を薄貝にする技術の指導を行った。

### ○工房いーさく

当センターでの漆工技術講習会を受講後、LTH、DRM 漆の吹き付け塗装を行っている。棹を拝見したところゴミの付着はあまりないが、塗膜のはじきが見られた。はじきの原因としては塗装前の拭き取りが不十分であることと下地工程でのピンホールであることが考えられる。吹き付ける前に下地固め、シンナーでの拭き取りを充分に行うことを指導した。





# 沖縄デザイン戦略構築促進事業

大城 直也

本県の産業振興をデザインで図る事業の最終年度である。当センターでは工芸産業、縫製業における「デザインの戦略的活用」を促進するための支援を行った。具体的には同事業の受託先であるシンクタンク（事務局）やサポートチームに対する事業企画の支援のほか、デザイナーや生産者に対する製品開発情報の提供や開発技術の支援を行った。本事業の基本指標は「おきなわブランド構築」＝「沖縄の感性価値を生かしたモノづくり」であり、沖縄の素材と技術に関する内容が特に求められた。

## 1. 事業概要

事業主体：沖縄県（観光商工部商工振興課）

委託先：共同組合沖縄産業計画

実施内容：モデル商品開発事業、情報発信事業、  
検討委員会開催、仕組みづくり

支援対象：工芸産業、縫製業ほか

## 2. 事業内容

### 1) モデル商品開発事業

マーケティング専門家の平良由乃氏（株式会社プラザハウス社長）をディレクターとし、コーディネータ、デザイナー、生産者によるプロジェクトチームを編成した。チームは「新おきなわスタイル」を共通概念とし、3企画12テーマで総数200点以上のモデル商品を展開した。沖縄の感性、素材、意匠、技術を活かす商品のありかたを考え、各企画を作り上げた。特に「素材」を全面に出すことが中核となった。

「Ryukyu Shirts」「kariyusi + (カリユシプリュス)」「Mariage de Ryukyu」

内容：繊維に月桃やさとうきび、染料には福木などの植物を用い、ボタンには貝や手織物を施すなどオキナワメイドに特化した。

開発分野：服飾品

コーディネーター：河崎吉宏

デザイナー：嘉数義成、中野広美、ザビエ・ムラン

生産者：株式会社日進商会、パイプニット株式会社、豊見城市ウージ染め協同組合、やまあい工房、うらそえ織結の会、有限会社中嶋プランニング

### Project1



沖縄の植物染料、貝ボタンによる手染めシャツ

「コーラルスタイル」「琉球 VISAGE」

「THAI」「散光」「あざみや」「ナミヌサキ」

「One(ワン)」「うふあがり」

内容：化粧品パッケージ、テーブルウェア、家具、織物まで幅広いアイテムを展開。参画企業個々の特色とカラーを活かし、デザインを打ち出した。

開発分野：家具、テーブルウェア、照明器具

コーディネーター：大城亮子

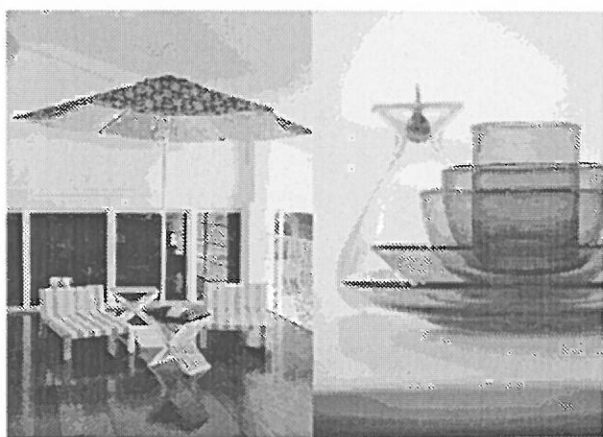
デザイナー：ザビエ・ムラン、大城早苗、デザインユニット  
THAI、前田慎

生産者：株式会社コーラルスタイル、株式会社あざみ屋、前田英吉、ゆいまーる沖縄株式会社、株式会社イワキ、株式会社プラザハウス、Sutdio ゆい YOKANG VIVACE DESIGN、ペルージェ川平株式会社、やふそ紅型工房

## Project2



月桃（沖縄の植物）を素材とした商品



リゾートユース家具と琉球ガラスの食器



手織りランナーと琉球漆器アクセサリ

### 「うがなびら」

内容：シーン設定「沖縄の月見」の商品提案。  
クバ、デイゴなど沖縄の素材を使い酒器  
や酒卓などシニア向け商品をラインナ  
ップ。また子供用の軽量スツールも提案。

開発分野：家具、テーブルウェア、照明器具

コーディネーター：神戸憲治

生産者：工房島変木、クラフト K's、Sutdio ゆ  
い、ROBOTZ design

## Project 3



軽量のデイゴ材による家具を中心とした提案

## 2) 情報発信

開発したモデル商品について、県内外の各種  
展示会におけるビジネスマッチングを行った。  
また日刊紙や機内誌などのメディアを活用し  
たブランド PR をはじめとし、生産業界にお  
けるデザイン活用を促進するためのセミナー、  
個別相談会、技術指導などを開催したほか、本  
事業で蓄積された知見を集約したフォーラム誌  
「Okinawa Design Source」を発行した。

### A) 市場への提案、展示会の開催

「スタイルを作る沖縄の要素(エレメンツ)展」  
内容：県内の流通事業者から一般までを対象と  
し、モデル開発商品 32 点を提案した。  
また沖縄のすぐれた工芸品を開発して  
いる県内 24 企業の紹介を併せて行った。

日時：2008/10/24～10/26

場所：おきなわ産業まつり(沖縄県立武道館アリーナ)



### 「新おきなわスタイル展」

内容：県内の流通事業者を対象としたビジネスマッチングを行った。工芸品とファッション、化粧品など3企画 90 種の商品を提案。

日時：2008/12/12～12/14

場所：プラザハウスグローバルギャラリー

### 「IFF：新おきなわスタイル展」

内容：県外の流通事業者を対象に3企画 68 種のファッション中心の商品提案し、ビジネスマッチングを行った。

日時：2009/1/14～1/16

場所：東京ビックサイト（インターナショナルファッションフェア）

### 「おきなわシニアリラックス展」

内容：県外の一般生活者を対象に3企画40種の工芸商品を提案し、商品販売会を行った。

日時：2009/2/19～3/4

場所：東京銀座わしたショップ

## B) 業界への啓発事業

### 「縫製技術アドバイスセミナー」

内容：メーカーズシャツ鎌倉の会長・貞末良雄氏による縫製技術およびマーケティングに関するセミナーを開催。また企業個別相談会を行った。

日時：2008/8/21～8/22

場所：那覇市職員厚生会館



製造業者を対象とした個別相談会

### 「商品展示・ディスプレイ講習会」

内容：ディスプレイ (VMD) の専門家である宇津木悟氏による VMD セミナーを開催。また催事におけるディスプレイの実践指導を行った。

日時：2008/10/22～10/23

場所：那覇市ぶんかテンプスホール（セミナー）  
県立武道館アリーナ（実技指導）

### 「デザイン戦略活用フォーラム」

内容：日経デザイン編集長の下川一哉氏による講演会およびパッケージデザインに関する個別相談会を開催した。また県内企業3社の代表を交えたパネルディスカッションを行った。

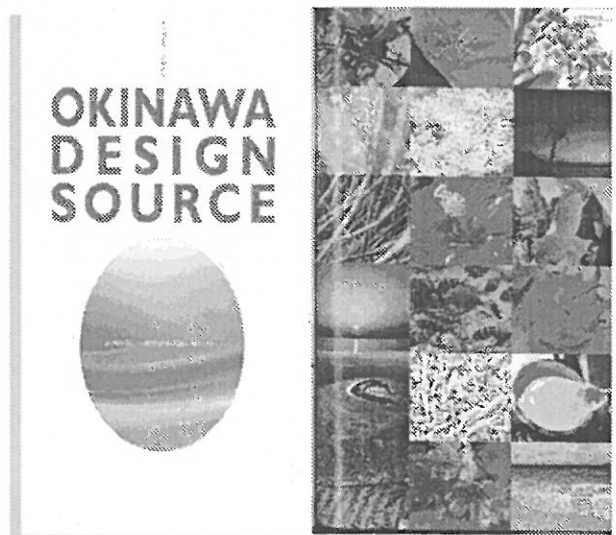
日時：2009/2/4

場所：那覇市ぶんかテンプスホール



デザイン戦略活用フォーラム

## C) フォーラム誌発行「Okinawa Design Source」



内容：沖縄のソフト資源の紹介、それを活かす識者の論評のほか、本事業で取り組んだ商品開発を紹介した。沖縄のデザイナーを中心としたクリエイターをリストアップし、マッチングを促進するなど、感性価値の創出と活用を促す手引き書とした。

### 3) デザイン活用に向けての仕組みづくり 「検討委員会の開催」



内容：経営資源としてのデザインを戦略的に活用する仕組みを作るため、行政、企業、支援団体などの有機的連携の提案を行う「検討委員会」を開催した。

日時：2008/6/27, 10/27, 12/15, 2009/1/16,  
場所：沖縄ハーバービューホテル、東京有明ペイワシントンホテル

検討委員：

桑江修氏（社）沖縄県工業連合会 事務局長）

加藤尚彦氏（KATO 企画 代表）

聖生清重氏（日本繊維新聞社 編集主幹）

下川一哉氏（日経デザイン 編集長）

伊良波勲氏（沖縄県衣類縫製品工業組合 事務局長）

島袋貴子氏（株）沖縄県物産公社 営業部販売促進室 主任

山内カンナ氏（株）マドンナ、YOKANG デザイナー

#### 「生産者及びデザイン関係者への調査」

内容：製造業（縫製業、工芸産業、食品製造など）、デザイン業（印刷、広告代理店など）を対象にデザインの戦略的活用に関する調査を実施した。デザイン活用によ

る特化に意欲はあるものの、取り組めていない現状が明らかになった。

期間：2008/9/10-9/19（アンケート）

2008/11/20-12/5（ヒアリング）

結果：63/260 サンプル回収（アンケート）  
7社（ヒアリング）

#### 「デザイン活用の連携の仕組みづくり」

本事業で実施した支援事業の成果を踏まえ、行政、関係機関における連携を図る事を目的とし、平成 21 年度に「沖縄県産品開発関係機関連絡会議」及び「沖縄県産品開発デザイナーズネット連絡会議」を設置し、継続して企業のデザイン戦略構築を支援することとなった。

「沖縄県産品開発関係機関連絡会議」では国や県、製造業の連合会など関係機関の施策や事業を協議し、製造業やデザイン業に向けた支援策を展開する。

また「沖縄県産品開発デザイナーズネット連絡会議」では、本事業で発行した「Okinawa Design Source」掲載クリエイターの中から 5 分野 12 名で構成される「D-net」によりデザインのマッチングや普及活動を行う。

#### 「まとめ」

沖縄のモノづくりにおけるデザインの戦略的活用に取り組んできた。南国の素材、伝統技術、イメージとしての色、リゾートテイストなど多様な切り口を検討し、具体化するプロセスを行ってきた。昨今の景気後退による市場開拓の厳しさを実感したが、コンセプトが明確な商品については多くの引き合いを得た。

「RYUKYU SHIRT」は糸にサトウキビ混糸、布地染色に沖縄の植物染料やインディゴ、ボタンには沖縄の貝類を使用、パターンと縫製加工を県内で行うなどメイドイン沖縄を追及した。また天然染色の特徴である色の変化については、「染め直し」サービスを販売価格に付与するなど、販売方法を工夫した。

本事業はこれからのモノづくりに必要不可欠な企業独自の「デザイン戦略」を形作ることができた。